

# 25周年記念誌

一般社団法人  
ギャラリー  
Gallery

えみし  
愛海詩・創立25周年



一般社団法人愛海詩・ギャラリー愛海詩 玄関

## ●●● 愛海詩の思い ●●● Corporate Identity

- ◇ 文化を育てる一翼となり、一人一人の生活が心豊かなものになるよう、各々の佳き出会いと学びを大切にします。
- ◇ 作り手の技と心を大切にしてかけ橋役になります。
- ◇ 北海道(古称・愛瀾詩)を大切にし、文化に貢献します。

●●●●●●●● ハンドToハンド、ハートToハート  
手から手へ、心から心へ ●●●●●●●●



- 1998年(平成10年)
9月 菊地勝太郎(作陶)・前田真里(組紐)
10月 中村二夫(作陶)・こぎん研究所
11月 三州瓦・あとえ草創(染色)
12月 佐藤勝久(鉄器)・北出広之(木彫)
1999年(平成11年)
1月 伊藤智子、伊藤千恵子(染織)・黒滝茂美(津軽塗)
2月 児玉清一(作陶)・高橋美香子(絵画)
4月 松山 孝(絵画)・金子直人(鋳器)
5月 新林裕子(作陶)・鈴木義隆(作陶)
6月 白戸孝行(作陶)・三州瓦
7月 吉川 満(ガラス)・前田真里(組紐)
8月 高橋久子(作陶)・高橋美香子(絵画)
9月 菊地勝太郎(作陶)・解良泰生(染色)
10月 金子直人(鋳器)・あとえ草創(染色)
11月 三田憲子(絞り染)・黒滝茂美(津軽塗)
12月 松山 孝(絵画)・アンゴラ、ウール研究会(染織)
2000年(平成12年)
1月 葛西やえ子(染織)・坂本 工(小鹿田焼)
2月 中村二夫(作陶)・こぎん研究所
3月 白洲千代子(装飾)・大橋圭三(作陶)
4月 解良泰生(染色)・福土玲子(草木染織)
5月 菊地勝太郎(作陶)・鈴木直人(作陶)
7月 吉川 満(ガラス)・金子直人(鋳器)・森 克徳(作陶)
8月 高橋久子(作陶)
9月 新林裕子(作陶)・児玉清一(作陶)
11月 あとえ草創(染色)・泊志保美(陶人形)
12月 黒滝茂美(津軽塗)・三州瓦
2001年(平成13年)
4月 毛利勝清(作陶)・解良泰生(染色)
5月 遠藤政孝(染色)・鈴木義隆(作陶)
6月 黒羽じゅん(作陶)・あとえ草創(染色)
7月 白戸孝行(作陶)
8月 高橋美香子(絵画)・吉川 満(ガラス)・金子直人(鋳器)
9月 高橋久子(作陶)・黒滝茂美(津軽塗)
2002年(平成14年)
4月 解良泰生(染色)・吉川 満(ガラス)
6月 篠原 敬(珠州焼)・二代目・竹美奈(竹芸)
8月 白戸孝行(作陶)
10月 坂本 工(小鹿田焼)・七代・尾西楽斎(赤膚焼)

- 2003年(平成15年)
4月 太田富江(作陶)
5月 あとえ草創(染色)
6月 鈴木義隆(作陶)・平良恒雄(琉球ガラス)
8月 解良泰生(染色)
9月 毛利勝清(作陶)・小野寺かね子・宮崎うた子(植物染織)
12月 長田豊仙(京焼)
2004年(平成16年)
3月 細野利夫(無名異焼)
4月 高江雅人(竹芸)・吉岡幸雄(植物染)
6月 吉川 満(ガラス)
9月 篠原 敬(珠州焼)
10月 大野耕太郎(作陶)・渡部佳文(作陶)
12月 山本長友(九谷焼)
2005年(平成17年)
10月 富樫正雄(絵画)
11月 七尾佳文(作陶)
2006年(平成18年)
3月 塩澤啓成(染色)・大野耕太郎(作陶)
4月 吉川 満(ガラス)・多田鐵男(作陶)
9月 篠原 敬(珠州焼)・渡部源士(作陶)
2007年(平成19年)
3月 あとえ草創(染色)・五十地裕之(作陶)
5月 加藤綱助(作陶)・吉岡幸雄(植物染)
6月 平良恒雄(琉球ガラス)・二代目・竹美奈(竹芸)
9月 こぎん研究所・毛利勝清(作陶)
10月 山田幸和(組紐)・高橋久子(作陶)
12月 吉川 満(ガラス)
2008年(平成20年)
1月 高澤ろうそく
4月 大野耕太郎(作陶)・米原真司(ガラス)
5月 若林紀江(織物)・北出広之(木彫)
7月 石原 実(染色)
8月 篠原 敬(珠州焼)・渡部源士(作陶)
10月 稲葉直人(作陶)・加藤綱助(作陶)
11月 葛西やえ子(染織)・篠間眞沙夫(琉球漆器)
2009年(平成21年)
5月 吉岡幸雄(植物織)・吉川 満(ガラス)
8月 龍村光峯(織物)

- 2010年(平成22年)
4月 高江雅人(竹芸)・渡部源士(作陶)
7月 平良恒雄(琉球ガラス)
8月 篠原 敬(珠州焼)
10月 龍村光峯(織物)・廣澤徳三郎(組紐)
11月 吉川 満(ガラス)
12月 一心堂展示会(墨、筆)
2011年(平成23年)
5月 高橋正巳(篆刻)
8月 龍村 周(織物)
2012年(平成24年)
4月 松田静心(絵画)
9月 篠原 敬(珠州焼)
10月 龍村光峯(織物)
11月 福田敏雄(輪扁塗)
12月 上原勇七(印傳)
2013年(平成25年)
2月 木村元則(ぞうり、げた展示会)
4月 あとえ草創(染色)
7月 水木一成(ガラス)
8月 阿部和加子(書)
10月 松山 孝(絵画)
11月 青木啓作(江戸小紋)
12月 一心堂展示会(墨、筆)
2014年(平成26年)
3月 木村元則(ぞうり、げた展示会)
桜の器と一服の茶道具展示会
5月 こぎん研究所・山本長友、宮本 暁(九谷焼)
7月 朱 振南(書画)
8月 空女(華薩摩焼)
10月 廣澤徳三郎(組紐)
11月 相田啓介、相田雄老郎(会津塗)
2015年(平成27年)
1月 高橋太久美(切子硝子)
3月 木村 巧・元則(ぞうり、げた展示会)
5月 坂本 工(小鹿田焼)
6月 龍 悠(竹芸)
8月 こぎん研究所
9月 白洲千代子(装飾)
10月 下平清人(型絵染)
11月 仲間智登志(木彫)

- 2016年(平成28年)
10月 木村英昭(備前焼)
12月 空女(華薩摩焼)
2017年(平成29年)
3月 藤原敏行(日本画)
5月 古梅園展示会(墨、筆)
10月 下平清人(型絵染)
11月 弘前こぎん研究所
2018年(平成30年)
4月 香蘭社展示会(有田焼)
6月 下平清人(型絵染)
7月 川崎精一(有田焼)
9月 15代・沈 壽官(薩摩焼)
11月 眞崎善太(波佐見焼)
12月 里見寿隆(三河内焼)
2019年(平成31年)(令和元年)
3月 香蘭社展示会(有田焼)
6月 26代・木村桃山(備前焼)
7月 松田静心(絵画)
9月 川原史郎(龍門司焼)
12月 高橋楽斎・奥田陶生・迫 能弘 3人展(信楽焼)
2020年(令和2年)
9月 甲斐幸太郎(木工)
10月 川戸藤枝(日本刺繍)
2021年(令和3年)
1月 北海道の作家応援展示会Ⅰ
3月 北海道の作家応援展示会Ⅱ
4月 高木きらら(欧州刺繍)
10月 26代・木村桃山(備前焼)
2022年(令和4年)
1月 愛海詩特別注作品展
4月 酒井芳元(水彩画)
7月 門脇裕二(江戸切子)
8月 北川智浩(作陶)
10月 川戸藤枝(日本刺繍)
11月 甲斐幸太郎(木工)
12月 新しい年を楽しむ展示会
2023年(令和5年)
4月 朝日堂展示会(京焼、清水焼)
6月 夏を楽しむ展示会(ギャラリー大通美術館にて)
8月 瀧澤利夫(江戸切子)

講演会

- 平成19年 6月13日 吉岡幸雄「日本の色」
21年 6月 6日 吉岡幸雄「日本の伝統色」
22年10月19日 龍村光峯「錦〜光を織る」
24年 4月14日 徳川家広「経済の潮流」
24年 4月15日 徳川家広「歴史の攻防」
25年 8月20日 阿部和加子「出会い」
25年10月19日 徳川家広「その後の会津松平家」
25年10月20日 徳川家広「日本経済の命運と再生」
26年 5月24日 小檜山博「ひとりでは生きられない」
27年10月11日 小林三樹「世界の水・札幌の水」
29年 8月 4日 池辺晋一郎「たえなる音楽 その光Vol.1」
30年 1月13-14日 池辺晋一郎「たえなる音楽 その光Vol.2」
30年11月11日 木村雅信「芸術世界」
令和元年 7月19日 金ヶ江悦子・松田静心「強く・美しく・朗らかに」

MO...佳い会 (年の瀬 会食 交流会)

- 平成28年12月10日 徳川家広「日本国憲法70年を前に徳川宗家と日本国憲法」(講演)
スベンサートリックス(マジック)
29年11月23日 ダンディ・フォー演奏会(コンサート)
令和元年12月 1日 スベンサートリックス(マジック)
2年11月28日 馬場 聡「弁護士が見たポストコロナの社会変容」(講演)
3年11月27日 岩井宏文「北のスピリット」(講演)

コスモス文化ツアー

- 第1回 平成17年 アルテピアッツァ美瑛、陶作家 大野耕太郎アトリエ見学
第2回 平成18年 MIHOミュージアムと京都の旅 染司よしおかの工房を訪ねる
第3回 平成19年 細川護國の「不東庵」と旧白洲邸「武相荘」を訪ねる
第4回 平成19年 いにしへの京都旅「俵屋旅館」宿泊、鞍馬寺、貴船の史跡を訪ねる
第5回 平成22年 染司よしおか五代目 吉岡幸雄と行く東大寺、お水取りと京都の旅
第6回 平成25年 徳川家広と行く 長良川編みいと伊勢神宮62回目的「式年遷宮」の旅

『愛海詩』に篤く御厚情を賜りました方々です。感謝の意をこめてここに御芳名を書かせていただきます。

- ・明野三枝子様 ・音喜多千佳様 ・佐々木章子様 ・中島千恵子様 ・御村 光子様 ・渡辺 正郎様
・安宅 信昌様 ・川瀬 明子様 ・佐藤 容子様 ・名越 隆雄様 ・宮下 周平様
・石井 一弘様 ・川本 幸代様 ・白洲 智誉様 ・成田 貞治様 ・宮本 洋子様 (故人)
・石川 晴海様 ・木目澤一三様 ・外岡 洋子様 ・根本 絢子様 ・三輪 高士様
・石田亜紀子様 ・木目澤順子様 ・高木美恵子様 ・馬場 聡様 ・森 武志様 ・岩崎 恵子様
・石田 時子様 ・玖村 敦彦様 ・高橋 浄英様 ・疋田 裕子様 ・森 祐子様 ・岡本 章様
・伊戸 隆紀様 ・黒木 眞弓様 ・高橋 春美様 ・藤田 里佳様 ・森居智恵子様 ・栗村 玉恵様
・伊藤 勇様 ・小竹 徹哉様 ・高橋 美鈴様 ・星野 静子様 ・梁井 朗様 ・高木 治様
・大川知 聡様 ・小林 茂代様 ・栃木 稔様 ・堀 民子様 ・山形健次郎様 ・藤谷 清一様
・大川知千海様 ・小林 聖二様 ・富澤登喜恵様 ・松岡 幸代様 ・山口 俊明様 ・本田 茂子様
・岡本 民子様 ・斉数 愛子様 ・富澤 緑様 ・松原 忍様 ・山崎 一彦様 ・本間 富雄様
・奥野 久子様 ・酒谷 和恵様 ・中川 美香様 ・三河 征子様 ・渡邊 大督様 (あいうえお順)

上記の他にも58人の職人、作家の方々、短くも濃くご縁、新しくご縁をいただいた方々など紙中がなく、掲載できませんでしたが、感謝申し上げます。

一般社団法人愛海詩25周年企画スタッフ実行委員
統括・制作 葛西ひとみ
実行委員 小林 誠司 宮本 洋子 荒井 綺乃
山本 綾子 滝本 樹奈 葛西絵里子(司会)

一般社団法人愛海詩事務局
〒064-0821 札幌市中央区北1条西28丁目2番17号
TEL・FAX / (011)613-1112
WEBSITE https://www.emishi-s.com
E-mail:tissyaa@emishi-s.com

令和5年8月10日発行
25周年記念誌
編集発行人 佐藤 睦子



江戸切子の名工、瀧澤利夫氏の北海道で初めての作品展をギャラリー愛海詩2Fで開催しております(札幌市中央区北1条西28丁目2-17)。 会期:8月22日(火)~9月10日(日)

皿、鉢、蓋物、各種グラス、ぐい呑、花入れ、抹茶盥など約50点を展示しております。下記の写真は出展の作品9点です。50点どれもが豊かな光を集め、手削りのカットが美しい作品ばかりです。

瀧澤利夫氏は、その確かな技と心により、平成24年に「瑞宝単光章」を授与され、令和2年には「東京都名誉都民顕彰」を受章されておられます。

江戸切子の重鎮です。珠玉の作品、是非ともご高覧下さいませ。



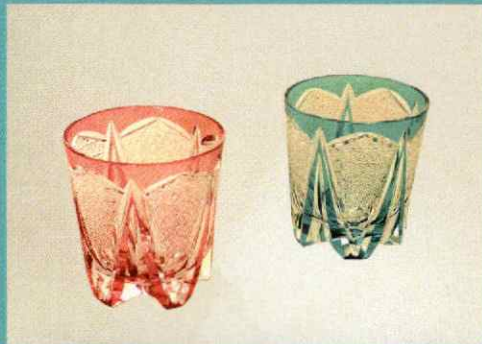
1.台付盛鉢・花ぶち籠目(19.5×15.5cm)



2.大皿 桜(30×30cm) 丸ぐいのみ桜(6.3×4.9cm)



3.蓋付き菓子鉢・六連籠目(19×15cm)



4.ロックグラス・星(18.5×18.5cm)



5.ワインクーラー 籠目(20.5×19.5×21.5cm)



6.杯・3種(赤色杯:5.5×10.5cm)



7.平鉢・波(24×7cm)



8.花瓶・丸に花と七宝(10×23×13cm)



9.平鉢・氷窓(24×7.5cm)

えみし  
一般社団法人愛海詩 設立  
gallery愛海詩 創立25周年

## 特別記念企画

令和5年9月2日(土) 場所:かでの2・7 (14:00開場)

場所 かでの2・7 1F「アスピックホール」  
札幌市中央区北2条西7丁目道民活動センタービル  
(地下鉄大通駅2番出口より徒歩約11分)  
参加費 3,800円(全席自由) 主催 一般社団法人愛海詩・ギャラリー愛海詩

第1部

14:30~16:15

生物学者 福岡 伸一 講演会

演目 芸術と科学のあいだ

生命とは、動的平衡である。世界を解くキーワード、それは動的平衡。  
動的平衡とは、変わらないために変わり続けること。融通無碍な動態。

休憩15分

第2部

16:30~17:30

特別対談

生物学者

福岡 伸一

徳川宗家十九代

徳川 家広

動的平衡から読み解く、「美」とは何か

各種お問合せ

ご連絡は下記、「一般社団法人愛海詩」事務局へお寄せください。

TEL/FAX:011-613-1112(受付時間 11:30~18:00(木曜日13:00~)月曜定休) E-mail:issya@emishi-s.com





徳川宗家19代・徳川記念財団理事長  
徳川家広氏

大好きな札幌を訪れると、必ず顔を出すようにしている、ギャラリイ愛海詩。選りすぐりの工芸品、美術品がぎっしり詰まった小空間には、初めて訪れた時から愛おしさとともに、どういいうわけか、懐かしさを感じていました。モダンさを強く感じながら札幌にあって、愛海詩の店内には、自分が馴染んできた、昔ながらの日本の美があったからではないかと思っています。

その愛海詩が、今年で開業25周年を迎えるということ、心よりのお祝いを申し上げたいと思います。それとともに、この貴重な空間を支えてくださった皆様に、篤く御礼を申し上げます。ありがとうございます。ここにあるからこそ、東京人の私は普段の生活から遠い札幌にあって、ここが自分の町であるかのような居心地の良さを感じてきました。

今日の日本においても、世界においても、先行きが不安になるような殺伐とした出来事ばかりが目立っていますが、それはやはり人類が全体として

余裕をなくしており、自分の幸せが何であるかを考えることもないままに、物質的な向上だけを求めて競争的にもがき続けているからでしょう。近代文明の病理、と言ってもよいかもしれません。

これまでギャラリイ愛海詩が進めてきたのは、その病理に対する妙薬を、訪れる人たちに与え続けることだったと、私は考えております。日本において最も近代的な都市である札幌は、本州以南の日本にはない透明で開放的な空気に恵まれております。そのような札幌に不足しているもの

—古き日本の文化的豊かさ、と言ってもよいかもしれませんが、そこそが、ここで言う妙薬です。こつこつと築き上げられてきた匠の技や、権力者に保護されて爛熟した至芸の結晶を提供することで、愛海詩は札幌人の心に潤いを与えてきたのです。

ギャラリイ愛海詩の誕生からの四半世紀を記念する講演会に、生物学の世界を革新しつつある福岡伸一先生との対談という形で参加させていただくことになり、深く感謝する次第です。当日、皆様のお目にかかれることを、楽しみにしております。



生物学者  
福岡伸一氏

ギャラリイ愛海詩、25周年、一般社団法人愛海詩創設、たいへんおめでとうございます。長年にわたり、北海道において、文化・芸術の保全と振興に多大なご尽力をされてきたことに心より敬意を表します。

わたくしは若い頃から北海道にあこがれ、夏は昆虫採集や登山(子供の頃からねっから)の虫好きでした、冬はスキーなどに何度も訪問させていただき、そのたびに雄大な自然とともに、その歴史や事績にたいへん興味を持ってきました。また、最近、北海道を舞台にした、故・津島佑子さんの長編小説「ジャック・ドフニ」を読んだこともあり、あらためて北海道の自然、文化、芸術に思いをはせる機会がありました。

今年の冬には、はじめて紋別の街を訪れました。紋別と聞くと、これまでわたくしの中では、雪と流水に閉ざされた極寒のオホーツクの地、というイメージしかなかったのですが、実際に行ってみると、そこには、実に豊かな自然史、人類史、文化史の宝庫があることを学びました。紋別の郊外には、鴻之舞鉱山の遺構

があり、かつてこの地が大規模なゴールドラッシュに湧いたことがあったことを知りました。また白滝地区の資料館では、良質の黒曜石が産出され、三万年前から精巧な石器が作られ、ここが人類の文化発信地になっていることを学びました。丸瀬布(まるせつぷ)には、昆虫生態館があり、特産のオオイチモンジ蝶、アマシジミ蝶という稀少種の保全活動に力を入れていると聞きました。

「愛海詩」の活動が、北海道各地の草の根的な文化・芸術振興運動と連携しながらますます発展することを祈念いたします。

お示しがあり「愛海詩」が辿って来た道を思うと、喜びの波切ない波のような、人の機微のさまざまな波の繰り返しの揺り籠の中で育てられて来たように思います。ここに改めて、心を寄せて下さるみな様に、衷心より感謝申し上げます。

そしてまたこの記念の関に、尊敬するお二人、徳川家広様と福岡伸一様のご講演、対談をいただき、みな様と共に迎えます。お二人の豊かな教養に於いての本当を見抜く眼を学びたく思います。そしてその様な中にこそ「愛海詩」がこの北の地で、美しい物言わぬ気韻の中の作品等を紹介させていただき、感動が確かな実となつて行く多くの学びがあるのです。



一般社団法人愛海詩・ギャラリイ愛海詩  
佐藤 睦子

論語に曰く、「不惑の年」に私は「愛海詩」をこの北の地に開きました。不惑の年とは言われているのですが、自身の内なる声に耳を傾けて行くそんな、外と内の葛藤も多くあったように思います。

今年、令和五年、一般社団法人愛海詩設立、ギャラリイ愛海詩は二十五周年、四半世紀を迎えました。多くの方々の励ましや、

私は今、連続と続く時代の流れの一点に、一瞬ともいえる生命を活かされております。故郷、北の大地への万感は尽きることはございません。同じ時代を共にし、各々の場を照らしているみな様の灯りの中に私の灯りもあります。互いに照らし合い、私は自身の光を届け続けることを、一般社団法人愛海詩設立、ギャラリイ愛海詩二十五周年に、思いを新にしております。

そして「愛海詩」がまだ見ぬどんな景色を見せてくれるのだろうか、と、縹渺とした中に目を凝らし、みな様と共にあることを願い進んで参ります。

(令和五年初秋、感謝の中で...)